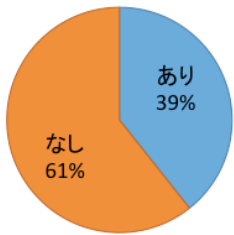


多系統萎縮症診断に適切な自律神経評価

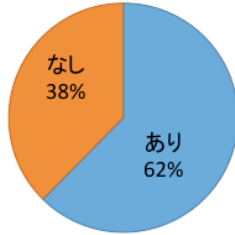
研究分担者: 桑原 聡(千葉大学大学院医学研究院・神経内科学)

自律神経機能検査項目の診断感度

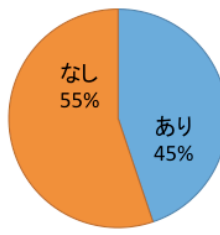
OH30mmHg



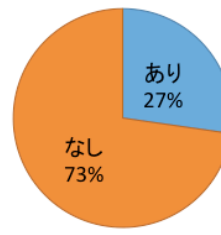
OH20mmHg



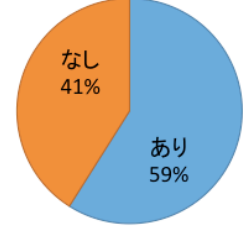
尿失禁



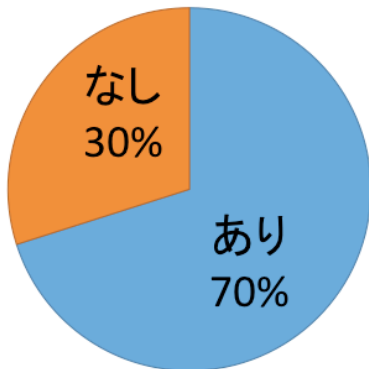
陰萎



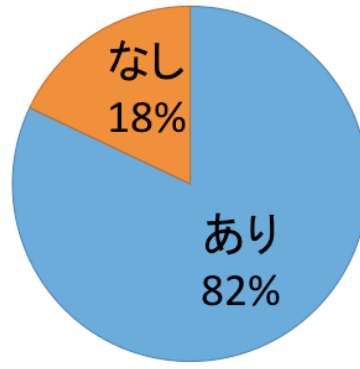
残尿100ml以上



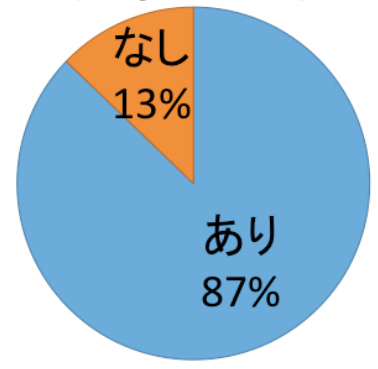
OH30mmHg
or 尿失禁・陰萎



OH30mmHg
or 尿失禁・陰萎
or 残尿100ml以上



OH20mmHg
or 尿失禁・陰萎
or 残尿100ml以上



OH30mmHg: $\Delta sBP \geq 30\text{mmHg}$ or $\Delta dBP \geq 15\text{mmHg}$
OH20mmHg: $\Delta sBP \geq 20\text{mmHg}$ or $\Delta dBP \geq 10\text{mmHg}$

【目的】

1年以上経過観察を行い最終的にGilman基準のprobable MSAと診断されたMSA症例における初診時の自律神経機能検査において、probable MSAを満たす症例頻度、ならびに(1)起立性低血圧(OH)基準緩和、(2)残尿測定を加えた場合の診断感度を検討し、早期からのMSA診断に適切な自律神経機能評価項目の組み合わせについて検討を行った。

【成果】

Probable MSAの条件(OH30mmHg、尿失禁または陰萎)を満たす症例は82例(70%)であった。「OH30mmHg、尿失禁、陰萎または残尿100ml以上」を満たす症例は96例(82%)、「OH20mmHg、尿失禁または残尿100ml以上」を満たす症例は102例(87%)であった。OH基準を20mmHgに緩和し、残尿測定を併用することはMSA診断感度を70%から87%まで上昇させることから、MSAの早期診断に有用であると考えた。